
馬鹿正直

翠

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿正直

【Nコード】

N0148M

【作者名】

翠

【あらすじ】

【平次↓蘭】コナン達と一緒にキッドの調査をしていた平次は、蘭がキッドの変装じゃないかと疑って……？

拍手おまけ話あり

「そういえば、キッドはねーちゃんに化けた事があつたんやてなあ」
「う、うん。でも今は違うよ。ちゃんと私だもん」
「へー、ホンマかいな」
「服部くんってば」

平次は緊張でこわばった顔の蘭を、頭の先からつま先までじろじろと見たかと思うと不敵にニヤリと笑った。

「ボウズの目は誤魔化せても、俺の目は誤魔化せへんで」
「な、何を言ってるの？」

じりじりと後ずさる蘭の鼻先まで顔を近づけて、平次はチツチツと舌打ちしながら首を振った。

「ねーちゃんがスタイルええ言うてもなあ。いくらなんでもこんなにでかいわけないやろが！」

そう言つと、平次は手を伸ばし、むんずと蘭の胸をつかんだ。

そう、しつかりと。

「あ、あれ？ おかしいな、取れへんぞ。しかもむっちゃやわらかい……凝つとんなー」

感心したように、フニフニと指先を動かしてみる平次に、あまりの事に声も出せなかった蘭の身体が小刻みに震えはじめる。

「きつ……」

「服部、てめー!!」

同じく時が止まっていたコナンが平次に向かって飛び掛るのと、蘭が平次を殴り飛ばすのが同時だった。

「だから、違うと言ってるでしょうがー!!」

「いや、ホンマすまんかった。てつきりキッドの変装やと思つて……」

土下座して平謝りする平次を、蘭は頬を膨らませてにらみつけていた。その横には、どす黒いオーラをまとったコナン。

「蘭ねーちゃん、こんなヘンタイ許すことないよ。二度と東京には来ないでもらおうよ」

蘭には無邪気に微笑んでみせながら、コナンはさりげなく平次の背をがしと蹴っていた。

「ホンマ、悪かった!」

床におでこをこすりつける勢いで何度も謝る平次に、さすがにかわいそうになったのか蘭はため息をつくと微笑んでみせた。

「もういいよ。わざとじゃないんだし……その、じ、事故? だし……。忘れてくれたら……」

もじもじと真っ赤になってうつむいてしまった蘭を見上げると、平次は眉根を寄せながら口を開いた。

「それは無理やなあ」

「え?」

「初めて触った女の胸やし。俺も男やからなあ……」

「そ、そんな……」

額に怒りマークが見えそうなコナンを知ってか知らずか、平次はニヤリと笑うと立ち上がり、困ったように瞳をさまよわせている蘭に顔を近づけた。

「俺が責任とつたるか?」

「え?」

きょとんとして首をかしげて見上げる蘭に、平次はいたずらつ子のように微笑んだ。

「せやから、俺が責任もってねーちゃんと付き合っ言ってんねん」
「ええ!?!」

「なつ、服部!？」

二人の間に割って入ろうとするコナンの頭を押さえつけ、なおも蘭に近づく平次。

「工藤はいつ帰ってくるかわかれへんし、ねーちゃんの胸をがつつり揉んでもうた責任取って、一生大事にしたるで。どうや？」

「どうやって言われても……服部くんには、か、和葉ちゃんがいるじゃない!」

「は? なんで和葉が出てくんねん。あいつは幼馴染や。同じ幼馴染でも、工藤とねーちゃんみたいな感情はあらへん」

「そ、そんな……」

本当に困ってしまったような蘭の顔を見て、平次はふっと笑った。

「まあええ。ゆっくり考えといて。工藤から慌てて電話かかってくるかもしれへんけど……俺の気持ちは変われへん。男に二言はない。工藤の変わりでもええ。いつでも立候補するで」

平次はコナンの目線に合わせるようにしゃがみこむと、「ちゅーこつちや。工藤にしっかり伝言頼むでえ」とコナンの頭をがしがしと撫でた。

「まあ、俺んトコきたら、工藤を忘れさせる自信はあるで」

平次と視線のあった蘭は、平次のとびきりのウィンクに真っ赤になった。

（後書き）

夢でみたものを具現化してみました。

拍手おまけ話あり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0148m/>

馬鹿正直

2010年10月10日04時23分発行